

高等専修学校 それぞれの特色

多様な個性のある生徒の自立を支える 高等専修学校

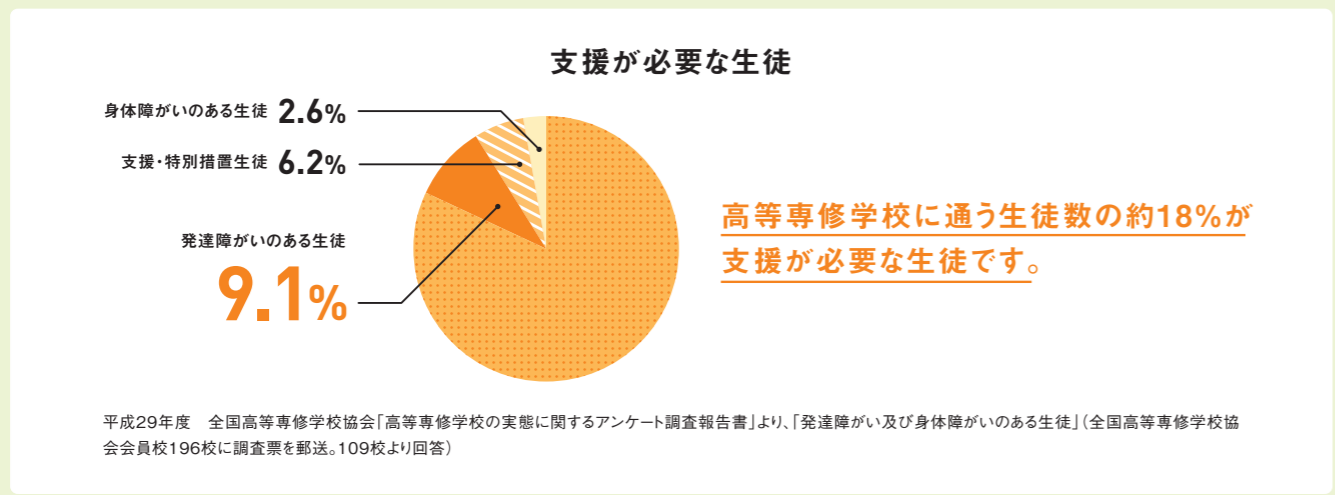
個々の生徒に応じた手厚い教育を通して、
さまざまな個性のある生徒が社会で生きていくための力を身に付けることができます。

高等専修学校では、生徒のさまざまな個性を踏まえた教育が行われています。生徒一人ひとりの能力や特徴を先生がしっかりと見極めたうえで、少人数クラスでの個別指導や、学習指導要領に縛られない自由なカリキュラムを実施することで、社会で生きていくための一

般教養や就職につながるスキルを、個々の生徒に応じた形で身に付けさせることができます。また、支援が必要な生徒を広く受け入れる高等専修学校も多数あり、インクルーシブ教育や就労支援を通して、自立した生活のためのサポートを行っています。

1 多様な個性の生徒の在籍数

高等専修学校には支援が必要な生徒も多く通っています。



2 カリキュラム例

社会で必要となる技能を身に付ける授業が充実しています。

一人ひとりの個性を活かす、実務に直結した自由選択科目 /

武蔵野東高等専修学校 1年生の場合

	MON.	TUE.	WED.	THU.	FRI.
1	HR	地理	国語	数学	英語
2	地理	保健	合同体育	体育	数学
3	国語	数学	英語	英語	地理
4	ペン字	専門コース 自由選択制 (半期ごとに1コースを選び履修)			
5					
6					

武蔵野東高等専修学校では、基礎教養を学ぶ「普通科目」と、自分の目標に合わせて自由に選択できる「専門科目」をほぼ5:5の割合で用意しています。専門コースは以下の中から1コースを選ぶようになっています。

- ・絵画・陶芸・体育・調理・製菓
- ・ファッション・情報ビジネス・大学受験

3 インクルーシブ教育

発達障がいのある生徒と健常な生徒がともに学ぶ教育があります。



発達障がいのある生徒と健常な生徒が学校生活をともにする「インクルーシブ教育(混合教育)」は、現在の教育界で注目されています。高等専修学校の中には、「インクルーシブ教育」を取り入れている学校があります。発達障がいのある生徒はこのような環境下で多くの友人をつくり、一般社会での生活に近い経験を積むことができます。一緒に学ぶ健常な生徒にとっても、発達障がいのある生徒たちが生きる勇気を与えてくれる存在となっています。

先生からの一言

学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校
渡辺 正司 校長

ともに心を育て合うバディ制度

本校は開校当初より、混合教育(インクルーシブ教育)に取り組んできました。混合教育を推進していくために取り組んでいるのが、バディ制度です。これは、健常な生徒と発達障がいのある生徒による1対1のペアのことであり、このバディを一つの単位として学校生活のさまざまな活動に取り組ませていくものです。最初はともに戸惑う場面も見られますが、徐々に互いの個性を理解し、バディとして頼もしい存在となっていくます。障がいのある生徒は、健常な生徒を手本として、活気ある刺激を受けて成長していきます。健常な生徒の中には不登校や高校中退を経験した生徒もあり、障がいのある生徒のひたむきさ、素直さ、一生懸命に努力する姿を間近で見ること、自身の弱さを見つめ、自ら再生していく機会にもなっています。

4 学校行事

体験学習を中心とした学校行事が充実しています。

- 武蔵野東高等専修学校の場合
- 年間行事例
- 4月 1年生研修
 - 5月 修学学習
 - 6月 スポーツ大会・林間学習
 - 7月 盆踊り
 - 11月 学園祭
 - 12月 合唱コンクール
 - 1月 スキー教室
 - 2月 スピーチコンテスト

- 部活動
- ラグビー部 / 卓球部 / 陸上部 / 軟式野球部 / 美術部 / 茶道部 / コンピュータ部



5 インターンシップ制度・進路サポートの充実

高等専修学校では企業等でのインターンシップが一定の授業単位として認められます。生徒たちは実社会での仕事を体験し、自分に合った仕事・職場を見つけていきます。



先生からの一言

学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校
渡辺 正司 校長

インターンシップがそのまま採用評価に

本校では、職業実習(インターンシップ)を2年次から実施しています。学校独自で軽食喫茶店を開店し、生徒の職業教育の実践の場として活用。2年次後期から就職先候補となる企業等でインターンシップを行っています。3年次のインターンシップは、そのまま採用評価につながるものになっています。生徒一人ひとりの進路を生徒・保護者・教員が真剣に考え、卒業までに全員が進路を決定しています。本校では、卒業後の進路としてフリーターになることを認めていません。

interview みんなの声

多様な個性のある生徒の進学にはさまざまな道があります。
高等専修学校を卒業した後、社会に出て自活の道を歩んでいる生徒たちもたくさんいます。
在校生、保護者、卒業生、就職先企業からお話を伺いました。

✎ 在校生の声

高校3年間で友達がたくさんできた!

武蔵野東高等専修学校に入学して初めて健常者と一緒のクラスに入りました。**何でも話せてふざけあえる友達がたくさんできた**ことがすごくうれしかったです。一緒にカラオケにも行ったんですよ。授業で選んだ専門科目は「調理・製菓」。カレーライス、クッキーなどいろんな料理をつくりました。時間内にシチューをつくる試験もありました。それまで料理をしたことがなかったのですが、授業はとて楽しかったです。学園祭では焼きそばをつくり、

校内にある「チャレンジショップ」という軽食喫茶店でワンコインメニューのカレーをつくって売ったり、いろんな活動もできました。今3年生で、卒業後はスーパーマーケットへ就職します。学校では、2年の後半から**希望の就職先の職場実習**が始まります。私は2週間ほどの実習に4回通い、野菜の陳列や選別、接客などの仕事を体験しました。3年の秋に内定をもらったときは心からほっとしました。早く社会人になって働きたいです!

＼ 黒住さんの学校生活 /

- ・好きな科目 / 専門コースで選択した「調理・製菓」。
- ・好きな行事・頑張った行事 / 学園祭で来賓用焼きそばをつくったことが一番の思い出。重役で緊張したけど、一生懸命つくりました。
- ・頑張ったこと / 陸上部に入って毎日練習に励みました! 駅伝や1500m走で大きな大会にも3回出場できてすごく楽しい思い出になりました。



学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校 3年
黒住 周平さん

＼ 今、楽しみなこと /

もうすぐ社会人!
スーパーへの就職が決定。これから社会に出るのが楽しみ!

🏠 保護者の声

生きていく力を育てる教育の高等専修学校を選択

息子は武蔵野東学園の幼稚園から高等専修学校まで一貫で通いましたが、実は高等専修学校進学するとき、特別支援学校に行く選択も考えていました。特別支援学校は、その子が心地よく生活できる環境をつくることを目指してくれます。一方、武蔵野東高等専修学校は、子供に課題を与えて能力を引っ張り上げてくれる。どちらが正解と決められることではないですが、よく考えた結果、**常にチャレンジする経験を与え、社会に出て生きていく力を育てる教育**をしてくれる高等専修学校に通わせよう決めました。高等専修学校では初めて健常な生徒と一緒にクラスとなりました。授業中に息子が自分のペースで質問をし続けると、クラスメー

トが「今はそういう時間じゃないよ」と気軽に突っ込みの声をかけてくれる。息子も、そこで気づくことがたくさんある。将来社会に出ていろんな人と接することを考えると、そういった友達がたくさんできたことがとても良かったのではないかと感じています。



保護者
黒住 千津さん

武蔵野東高等専修学校に通う黒住さんのお母さま。先生方が社会に近い視点を持っていることも頼りに、高等専修学校への入学を決めた。

🎓 卒業生の声

先生からの教えが日々の心の支えに

就職してから3年、事務の補助業務の仕事に携わっています。最初の2年間は書類の仕分け作業をしていましたが、今はステップアップして、重要書類の内容をパソコンに入力する仕事を任されるようになりました。絶対に間違えてはいけなくて緊張感ある作業ですが、スピードアップの目標を立てて楽しく仕事をしています。今の職場は高等専修学校の先生と相談して決めました。**就職前に職場実習を体験できた**ので、「僕もあと少しで社会人になるんだ」と働く意識を持つことができましたし、それまで苦手だったあいさつも自分から進んで行えるようになりました。高等専

修学校で学んだことはたくさんあります。勉強はもちろん、**友達との付き合い方、人との関わり方も先生が教えていただきました**。部活のラグビー部では毎日のトレーニングでつらいときもありました。でもそれを乗り越えることで忍耐力やチームワークも学ぶことができました。何よりも心に残っているのは「一度にたくさんのごことを覚えなくてもいい。必要なことを続けていくことが大切」という先生の言葉です。仕事を覚えるのは大変ですが、あいさつなど基本的なことは毎日きちんとやっていこうと思っています。



オリックス業務支援株式会社
近澤 駿さん(20)

学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校
平成28年度卒業



自分が仕事を頑張ったことでお給料をもらえることが、今何よりもうれしいという近澤さん。お金を貯めて、いつか両親を旅行に連れていくことを目標に毎日頑張っています。

🏢 就職先企業の声

人として大切なことを身に付けた高等専修学校の卒業生たち

当社では自閉症の方など障がい者を採用し、関連企業の事務補助作業や清掃作業などを請け負っています。自閉症の方は仕事が非常に正確です。努力することを惜しまず高い集中力を持って同じクオリティの作業を続けることもできる。書類の三つ折り、封入、ファイリング、パソコン入力といった彼らの仕事は、正確で美しいとグループ会社の中でも高い評価を受けており、今では多くの依頼にひっぱりだこ。事業の売り上げにも大きく貢献しています。その中でも、高等専修学校の卒業生は頼りになる存在です。学校で就労のための教育を受けているので、**人間形成がしっかりと**なされている方が多いと感じています。特に武蔵野東高等専修学校のように、健常者とのバディ制度などのインクルーシブ教育を取り入れている学校の卒業生は、**他者との仲間意識や後輩に対する優しさを身に付けています**。また、インクルーシブ教育の中

で礼儀や、「やってよいこと」「いけないこと」のけじめもしっかりと学んでいるので、私たちと一緒に働きやすい。仕事というものはチームワークが基本ですから、そういったコミュニケーション能力や忍耐力は非常に大切です。高等専修学校では、**先生方が一人ひとりの個性に合わせて、人として「将来にわたって本当に必要なこと」を厳しく指導されているのだ**など感じます。また、彼らの純粋でひたむきな姿に、一緒に働く健常者の仲間も心が洗われ、お互いにいい影響を与え合っています。

オリックス業務支援株式会社



事業運営部長
大西 直子氏



事業運営部指導員
渡沼 晃子氏